「添い寝の精霊」　連々

▽添い寝の精霊もとい『布団』

ヒロインの健やかな眠りを守るのが生きがい。身体を預けて、無防備な表情を見せてくれるヒロインが大好き。(僕、のんびり、甘々)

●ベッドの上でヒロインを待つ精霊、ヒロインがようやく寝る準備を済ませる。

ねえねえ、早くこっち来てよ〜。

もうこんな時間。明日に響くよ〜？

…ちょっと。スマホもさーゆっくり充電さしてあげなよ〜。

顔顔！反論するなら言葉で！ほら、嫌だって言いなさい。てのは、おかしいか。

…もういい！強制連行ー。

(背後から抱き上げ、ブツブツ呟く)

枕元にコンセントが無ければいいのか。模様替えが必要だな…。

ついたー。はい！今日も1日、お疲れ様でしたー！

(強めに勢いよく抱きつく)

っと、早くこれがしたくてさあ、も〜あんまり身体を大事にしないと…僕、手段は問いませんよ？なーんて。

はい、ごろ〜ん。とか、赤ちゃんみたいだね、ふふっ。ねえ、後ろがいい？それとも前？

…なんかにやってしてない？卑猥？えっち？どっちがだっての、ふふ。

今日はこっちね。後ろから、ぎゅっとする。

………あぁ、小さいなぁ。いっぱい動いて疲れたでしょ？ゆっくり呼吸して、身体を僕に預けて…そう。嬉しい…この重みと温もりを感じるとさ、こう…うん。これが、愛おしいっていう気持ちなんだよね。ずっと欲しかったんだ。

ふあ、あぁ〜あ。あくびうつっちゃった。あそうだ。

(ヒロインの匂いを胸いっぱいに吸い込む)

すぅー……うん！いい匂いだね。いっぱい、君の匂いが僕にうつればいいのに…。そのためには、いっぱいくっつかなきゃじゃない？

(ヒロインの背中に顔をうずめ、ぐりぐりと擦りつける)

んぅ〜〜っふっははっ！くすぐったい？あ痛い？ごめんね？許す？え、許さないの？

…だめ、許すの。僕も許してあげるから。何がって、ねー僕も分かんない。あーもうあんま考えて喋ってないもん。ねむいねむい。

あぁだめだめ、君をちゃんと、寝かしつけなきゃね。僕は、ちゃんと、君が寝たのを確認して、寝るんだから。

(ヒロインの身体をとんとんし始める。喋りもゆっくりに)

ほーら、ぽかぽかしてきた。どんなに寒い日でも、僕が温めるから、安心して目を閉じて。

ね？…ふふ。よーしよーし。今夜もきっと、いい夢みられるよ。

(ヒロインが寝息を立ててから)

……ふぅ、可愛い寝顔だね。

これからも、君の眠りは僕が守る。ゆっくりおやすみ。

(口づけ)

-------以上　742字

©連々　<https://www.renrenrenrenren.com>

二次配布と自作発言は禁止しています。フリー台本であることを記載してください。